

六甲山の森づくりとその活用方法を知る

～シュラインロード・六甲山山上コース～

ハイキング
しながら

〇六甲山の森づくり

神戸電鉄有馬口駅から六甲山上に至る今回のコース周辺では、昔ながらの集落や石垣の棚田が残る田園の風景、古くから薪炭の採取のため利用されてきた里山林、明治～昭和にかけて植林された人工林、六甲山系に多く見られる急峻な斜面上の広葉樹林など、さまざまに変化していく景色の中を登っていきます。

一方、登り慣れた方でも普段あまり気にすることがないかもしれませんが、その森林のほとんどは、個人や林産組合などが所有する「私有林」です。

特にこの地域の森林は、所有者の方々が、自分たちの先祖から受け継いだ森林を含む自然環境を次の世代にも引き継ぎたいという思いから、林業の衰退や高齢化による担い手の不足といった課題を抱えながらも、地域としてこのような森林の維持・管理に取り組まれています。

神戸市としても、災害防止などの観点から、さまざまな財源を用いながら、「森林整備」などの事業に取り組んでいます。このような森林整備の状況について、ハイキングルートに添ってご紹介します。

(次頁以降の①～⑥の場所は配布の地図を参照)

①山王神社境内



地域に古くからある下唐櫃の山王神社。境内にはウラジロガシなどの立派な大木が生育しています。同時にこのような大木は、カシノナガキクイムシという害虫の被害を受けやすい木でもあります。境内でも「ナラ枯れ」と呼ばれる病害が発生しており、台風などで倒れる危険性があったため、伐採・駆除を行いました。

整備のポイント

カシノナガキクイムシはその名のとおり、ナラ類、シイ・カシ類などに入り込み、産卵します。その際に媒介するナラ菌などにより、通水障害が引き起こされ、場合によっては枯死に至ります。

(右)カシノナガキクイムシ (体長5mm程度)



②東山橋周辺



整備前



整備後

阪神高速の高架をくぐり、進んでいくと、スギ・ヒノキが植林された人工林の木立が広がる風景に変わります。東山橋と呼ばれる橋を右手に眺めながら、道の左手に広がる森林は「清水が原」と呼ばれ、所有者の方々が植林された森林が広がっています。

整備のポイント

清水が原の人工林では、所有者の方々の手で枝打ちなどの維持管理が行われてきましたが、木々が密集し、下層植生が乏しくなっていました。このままでは土砂災害などが起きる可能性があるため、県民緑税事業や森林環境譲与税事業で間伐を実施しました。

また、ここで伐り出した木材は、新中央区役所などに使われています。

③逢山峡～猪ノ鼻小橋周辺



スギ・ヒノキの木立を抜け、逢山峡付近に差し掛かると、右手の溪谷はより急峻となり、周囲の森林も急な斜面地に広がる広葉樹林へと変化します。

こうした六甲山系に多く見られるアカマツやコナラを中心とした広葉樹林も、森林の崩壊防止機能を強化するために、県民緑税事業「都市山防災林整備」などの事業を活用して、危険木の伐採や、天然更新を目的とした伐採などを進めています。

整備のポイント

整備により森の中に光が入るようになっています。周囲の森林と比べて、明るさの違いがわかるでしょうか。

④猪ノ鼻橋周辺



整備前



整備後

猪鼻橋を渡るとT字路があり、この左側（順路は右）には竹谷林道と呼ばれる林道が続いています。この林道の周囲には、植林された人工林が広がっており、この森林の管理のために林道が使用されてきました。これまで、災害のたびに被害を受け、車両の通行などに支障が出ていたため、神戸市では、森林環境譲与税事業で修繕しました。

整備のポイント

適切な森林の管理には、森林にアクセスするための林道が必要です。また、林道は木材の搬出と活用も可能にします。

現在神戸市では、林道周囲のスギ林の間伐作業も行っており、ここでは伐採した木材の搬出も行う予定です。

○森づくりで伐った木の活用

○木材の活用

伐採した木材を積極的に活用することは、CO2の固定により地球温暖化の防止に役立ちます。また、それだけではなく、更なる森林整備につながるという点で、適切な森林の維持にもつながるものです。今回ご紹介する六甲山ビジターセンターや六甲有馬ロープウェー六甲山頂駅では、施設の一部に神戸市内の森林整備で発生した木材を活用しています。そのほかにも神戸市では、森林整備で発生した木材を区役所などの公共建築物で活用したり、「木を伐り、街でつかう」循環をつくるための仕組みづくりにも取り組んでいます。

間伐材の利用のイメージ

間伐



搬出



製材（一次）



売却

木材利用



製材品の保管



建築業者による人工乾燥や二次製材を経て

⑤六甲山ビジターセンター



2018年に改修された際に、唐櫃の里山林で伐採したコナラ材を加工した床板材が使われています。ここでは、コナラをスギ合板に貼り付けることで、強度を高め、寸法安定性の高い床板材として活用されています。

⑥六甲有馬ロープウェー六甲山頂駅



六甲有馬ロープウェーの六甲山頂駅では、六甲山の間伐材を、入り口ロビーの壁面やベンチなどに使用しています。

つかえる木ってどんな木？

木材というと、熱帯雨林や北極圏に近い広大な針葉樹林から伐採され輸入されてくるというイメージかもしれませんが。

一方で、私たちの身の回りの山々にも、かつて植林されたスギやヒノキなどの針葉樹、またさまざまな広葉樹などの多くの樹木が生育しています。こうした樹木も適切に活用すれば家具や内装などに十分使える木材です。

神戸市では森林や公園などの整備で発生したスギ・ヒノキや広葉樹の活用にも取り組んでいます。ひょっとすると、皆さんもどこかで神戸市産の木材を見かけることがあるかもしれません。